



公文書を後世に伝える体制の確立を

土田 百合子

問 公文書の保存について。
答 8月に公文書の管理、及び歴史的公文書の保存活用を目的とする公文書管理条例の制定や、公文書館の設置について調査研究を行う研究会を市役所内に設置したところである。平成23年3月までを期限として、市の公文書の管理方法について仕組みづくりを調査研究し、公文書管理条例の制定や公文書館の設置の必要性の検討を進めたい。

問 5歳児健診について。
答 5歳児健診の重要性を考え全市で実施できるように医師会と協議を進めてきたが、従事して頂く医師の専門的な研修が必要なことなど健診医の課題も多く全市での実施には現在、至っていない。今後職員への研修を進めながら、新年度から、5歳児健康診査の方向を見直し5歳児健康相談をして全市で展開していく。

問 マタニティマークの配布について。
答 新年度から、母子手帳の交付の際にマタニティマーク入りのストラップを配布したい。

●その他の質問●
 ○子ども条例について
 ○赤ちゃんの駅について
 ○保健センター体制について

マタニティマークを知っていますか？



問 聴覚障がい者用会話カード導入の提案について。
答 提案のカードはきわめて有効と考え、早速すべての救急車に常備する。

問 FM放送の実施に向け、災害時に大きな効力を発揮する「緊急告知ラジオ全戸配布」の考えについて。
答 市民への緊急情報の伝達手段としてコミュニティFMは有効と考え本放送開始に合わせ運用の可否を検討している。緊急告知ラジオについては、公共施設、高齢者世帯障がい者世帯の無料配布について検討している。



「バラマキ」をやめ、本来の政策を

木村 清貴

問 数年後、市に対する地方交付税は40億円減る。いずれ「ひも付き補助金」も一括交付金になり総額は減る。市税収入も年間4億円ずつ減っている。そういう状況下で、長寿祝い金・出産祝い金のような現金給付というバラマキを続けていいのかわからない。新規雇用奨励助成金も同じだ。15万円、30万円あげるから1人採用して欲しいは通用しない。今や「あれもこれも時代の」から「あれかこれかの時代」になったと、政治家より市民の方が将来の負担を心配している。

答 行政コストを下げること、住民サービスに係る経費を最大限捻出する。厳しい財政の中で「あれもこれもやっつけていいのかわからない」という指摘は厳しく受けとめる。

問 長寿祝金条例改正案を提出する準備はあるか。
答 12月定例会に提出したい。任意接種のワクチンは数多く、その総額は最大で15万円を超え、子育て世代の大きな負担となっている。出産祝い金を廃止し、福祉医療の拡



子育てのようす

大かワクチンの助成に転換できないか。
答 代替案を現在持ち得ていないのが我々の弱さだ。住民も現金給付に慣れてしまった。

問 市職員だけでも、病院を含め百人以上が他の自治体に住所を持っている。福祉医療の枠の違いも原因の一つではないか。消費活動にも影響を及ぼすと思う。
答 データとして承知していなかった。意外だ。福祉施策の違いが影響しているとの指摘は調査しなくてはならない。

問 最低でも、ヒブ・小児用肺炎球菌・ムンプスの3つは助成して欲しい。
答 国・県にはたらきかけていく。